

# NEW CROWN 授業実践事例

BOOK 2 LET'S READ 2 授業例②

A.S. 先生

指導計画表

(全2時間)

時間	学習内容・主な活動
1	内容を読み取る
2	平和について考える

## 実践例

### 1. LET'S READ 2 のねらい

- ①270語の文章の内容を読み取る。  
 ②地雷や戦争について知ることから、平和であることのありがたさを感じ、毎日の生活について考える。

### 2. 指導例

- ①日本語の質問に答えながら、大まかに内容を読み取る（資料1）

質問文を読むことで、どのあたりの英文についての質問か推測をすることができるように工夫した。各ページの Words や付録の「単語の意味」を調べながら、まずは個人で取り組む。時間を区切って4人程度のグループで話し合わせた後、全体で確認する。

- ②英語の質問に英語で答える（資料2）

内容を大まかにとらえているので、次の段階として英語の表現に注目させる。ページを示すことで答えを探しやすくした。①と同じようにまずは個人で取り組みませ、グループから全体という流れで確認する。ただし、slow learners は個人でやりきれないので、机間指導でヒントを与えたり、答え方について注意するよう声をかける。

- ③穴埋め日本語訳（資料3）

資料3では、地雷に関することや文章の内容として大事な所を穴埋めにした。穴埋めで抜く問題のポイントを2年生で習った文法事項に設定したり、Words に出てくる単語にすることもできる。時間をかけて英文そのものをしっかり読みたいときは、取り組んだらいいだろうが、内容理解という意味では①②だけでも十分だと思われる。

- ④感じたことをまとめる（資料4）

内容を読み取るための発問だけでなく、自分の考えを述べさせる発問をぜひ投げかけたい。コミュニケーションという言葉が教育の中に使われ出して

久しいが、事実を確認することがコミュニケーションではないだろう。意見交換する時間を取りたい。

ジャングルを離れて人生で初めてトイレを使ったことや、電気のある明るい街に驚いたこと、たくさんの国からやってきた人々のさまざまな考え方や生き方に接したことから、アキラさんはどう感じたのかを考えさせる。ジャングルでの生活が当たり前だったアキラさんにとって、不安な気持ちもあったであろうし、新しい人生への希望もあったことを感じさせたい。また、選ぶ自由があることが幸せの1つであることは、生徒たちには新鮮な考え方であると思われる。ぜひ自分たちの生活を振り返るポイントとしたい。

印象に残った文を選ぶ問いでは、日本語でもいいので選んだ理由を発表させたい。英語を学ぶことの1つの目的として異文化理解があるが、異文化とは何も海外の話だけではない。同じ教室にいて隣に座っている仲間であっても、考え方や意見は違うことを尊重するのが異文化理解である。お互いの考えや意見を聞いて、尊重し合えるようなクラスの雰囲気を作りたい。発表し合うのが難しかったり時間がとれないのであれば、生徒の意見をこちらでまとめたプリントを作り、改めて配布し読ませてもよい。

- ⑤地雷クイズ（資料5）

英語を学ぶことで知らなかったことを知り、興味を持ったことについて自分から勉強するような姿勢を身につけてもらいたい。私自身も仕事を始めてから、NEW CROWN を使って指導するために、題材になっている世界の問題についてより一層興味を持ち調べるようになった。生徒たちにも、地雷の問題をきっかけに、その他の世界の問題にも目を向けてもらいたい。

現在も地雷は世界中に1億個以上あり、年間10万個撤去していくとしても1000年以上かかる計算になる。しかも、毎年新たに数万個埋められている。

教科書で扱われているカンボジアだけでなく、約70か国に埋まっており、1年間に約2万人の人々が被害にあっている。

1つ300円程度で簡単にできてしまう地雷だが、撤去するのは簡単ではない。手作業で時間がかかるため、1万円以上のお金がかかる。最近は撤去用のショベルカーやブルドーザーを日本の企業が開発したり、風力で動く撤去用の機械なども作られているが、解決への道は遠い。

地雷は殺すことよりも大ケガを負わせることで、より多くその地域の力を奪う。手や足を失わせると、その人を助ける人が必要になるので、2~3倍兵力を下げるができる、と考えるのである。また、戦争が終わっても農作業などができないので、経済力も下げる。地雷は兵士だけでなく子どもたちも無差別に巻き込み、戦争が終わっても危険を残す悪魔の兵器であることを知り、現在でも世界中に地雷があることを自分たちの世界の問題であるにとらえさせたい。

戦争によって、貧困や教育が受けられないといった問題も出てくる。カンボジアの識字率は80%近くまで上がってきているが、識字率が非常に低い他の国や地域では、標識の文字が読めないために危険であることが分からない人たちもいる。

日本では、家族と暮らし学校に行き友だちと過ごす毎日が当たり前だが、この生活は世界の中では少数派で、他では手に入らないような生活であることを生徒たちに知らせたい。当たり前であるがゆえに、生徒たちはすぐに「無理」「できない」「めんどくさい」「おもしろくない」と投げ出したり、言い訳をすることが多い。

学校に行きたくても家族のために働かなくてはならなかったり、アキラさんのように兵士として生きることを強制されたり、お金がなくて通い続けることができなくなったりする子どもたちが世界にはたくさんいる。生徒たちは、教育を受けられないことが命に関わってくるとは思っていないであろう。ぜひ考えてほしい点である。

### 3. 評価・反応

英語の指導というよりは道徳的になるが、NEW CROWNの題材はそういう面も大切にしたいと思っている。LESSONではなく、LET'S READの扱

いなので、内容理解に重心を置き、私の伝えたいことをたくさん盛り込んだ。

生徒たちは真剣に考えている様子だった。ただ、「被害にあってかわいそう」「日本が平和でよかった」「募金をする」というような感想で終わらず、「今の暮らしに感謝して生活したい」「平和のありがたさを感じた」「毎日の生活を大切にして、もっと努力したい」など、自分の人生と照らし合わせて考えてくれたようだった。

#### <参考 URL>

ICBL  
[www.icbl.org](http://www.icbl.org)

地雷廃絶日本キャンペーン  
[www.jcbl-ngo.org](http://www.jcbl-ngo.org)

カンボジア地雷撤去キャンペーン  
[www.cmc-net.jp](http://www.cmc-net.jp)

難民を助ける会  
[www.aarjapan.gr.jp](http://www.aarjapan.gr.jp)

UNICEF  
[www.unicef.or.jp](http://www.unicef.or.jp)

日建  
[www.nikkenmfg.com](http://www.nikkenmfg.com)

KOMATSU  
[www.komatsu.co.jp](http://www.komatsu.co.jp)

風力で動く地雷撤去装置  
[Rdev2.xbs.co.jp/2012/12/38192](http://Rdev2.xbs.co.jp/2012/12/38192)